

ある読者からのお便り（シリーズ2「Who cares?」）第4回

※ 読者から頂いた文章をそのまま添付しております。

興味深いことにAは少し前のシーンで「ここには他に誰かいるのかな」という他メンバーの疑問に対し“Don't know, don't care. (知らないし、知る気もない)”と返している。これ以上関わるつもりはないという“don't care”には、knowとcareの違いとともにcareの本質が表れている。それは連続性である。

know(知る)とcare(気にかける)の二つはどちらも似通っているようで全く異なる。知ることは一度限りだが、気にかけることは時間を必要とする。気にかけたくなるほどの関係を築かねばならないし、気にかけたら常に相手を求めて情報を欲し続けることになるからだ。一方でAの“don't care”という興味の無さは連続を拒否し断絶している。

また知ることは質や量があり競うこともできる一方で、気にかけることには深さもなく、そもそも気にかけているかどうかすら確かめようがない。だからこそただ続けるというやり方でしか気にかけることはできないし、気にかけるはその人の中に、その人の形でしか存在しない。連続性だけが気にかけるを保証するのだ。

さらに、気にかけることには常に不安がつきまとう。何かを一度知ってしまったら知る前の自分には戻れない。たとえそれが知りたくないことだったとしても、その事実を無かったことにはできない。だが自分の中でそれを無かったことにする力は働くだろう。心配や不安、それどころか罪の意識すら背負わせてくるようなことから目を背けたいくなるのは当然の反応だが、それでも気にかけることは、知る以前の自分に戻ろうとする力に対して逆行し続けることだろう。気にかけることは振り返りのようでありつつ、進み続けることなのだ。

“Who cares?!”(誰が気にするというのか)に対する“I DO!!”つまり「私が」気にするんだという返事は、問いかけられる以前から常に存在していた。誰も気にしないという前提を常に覆し続け、“don't care”の断絶を拒み引き留める力、それが連続性である。

(5へ続く)

ヨハク NEWS

■ イベント概要

地域で暮らすことと精神科の薬 医療と福祉の連携と当事者主体

2025年3月22日(土) 14時~17時

会場・オンライン配信(後日配信あり)

会場: 東京大学駒場Iキャンパス 21KOMCEE EAST 2階 K211

参加費 一般・会場+後日配信 1,200円 一般・オンライン+後日配信 1,200円

当事者: 会場+後日配信 500円 当事者: オンライン+後日配信 500円

主催: 「精神科の診断・薬・社会」研究会

詳細・お申し込み [<https://peatix.com/event/4256138>]



地域で暮らすことと精神科の薬
医療と福祉の連携と当事者主体

日時: 3月22日(土) 14時~17時

会場開催
東京大学駒場Iキャンパス21KOMCEE 211
オンライン同時配信(後日配信あり)

